

キュービングの輪

中学一年一組 前田 隼人

「ジャカ、ジャカ、ジャカ。」

「よし、良いタイムが出た。」

二〇十八年のクリスマス、僕は母からル

ビックキューブをもらいました。もらった時

は一面だけ揃えながら遊んでいました。たが、し

ばらくすると部屋に放置してしまいました。コロ

ナになり時間に余裕ができる、僕はまた放

ておいたルビックキューブを手に取り、

全面の揃え方をユーチューブの動画を見なが

ら学びました。最初はとてつもなく難しいパ

ズルだと感じました。たが、ユーチューブの手順

通りに進めていくと、思った以上に複雑では

なく約三日で全面揃えられるようになります

た。その後、さらに早いタイムに向けて頑

張るようになりました。

最初は、タイムを早くするため、ひたすら

練習を重ねました。たが、平均一分ほどにな

いくら練習してもタイムが縮まらなく、なりま

した。
ユーチューブを調べて見ると速くなれた。
めの条件がいくつかあることが分かりました。
まずは、キューブを回すスピードやテクニッ
ク。キューブを回す時の指の使い方も工夫し、
効率のいい回し方をしなければなりません。
更に、アルゴリズムを覚えること。全面を揃
えるためにはたくさんの方のバタインが存在する
ため、その状況に合わせて手順も百個以上覚
えなければなりません。また、ある程度上達

するとルービックキューブで先を読む訓練が
必要になります。キュービングの競技では、
最初にキューブを見渡す時間が十五秒与えら
れます。プロキューバーはその時間を効率よく
使い、キューブを回し始める前に解き方の
手順を頭に入れておきます。先読みのテクニ
ックが速いタイムの決め手となります。僕は
毎日キューブを回し、新しいアルゴリズムを
覚え、一年間で平均三十秒というタイムが出
るようになります。

ゴロナが収まり学校に通い始めると、僕と
 同じようにルービックキューブにはまっ
 てい
 る友達がいって、僕達は休み時間やラン
 チの時
 一緒にキューブをするようになった。競
 い合うことでおたがいのタイムも縮まっ
 てい
 きました。他の友達も興味を持つよう
 になり、
 ルービックキューブ人口が徐々に増え
 てきま
 した。知らない人からも解き方を聞か
 れるよ
 うになりまし
 た。僕は辛
 抱強くみ
 人に教え
 たので、分
 かりやす
 いと評判
 になり学
 校で人

気者になりました。
 学校でルービックキューブが広まっ
 てくる
 と、僕はこの機会を使い昼休みにキ
 ュービン
 グクラブを立ち上げることにしまし
 ました。初
 日は人が来るのが心配でした。二
 十人以上の
 人が集まり
 ました。そ
 して二回
 目、三回
 目で
 は四十人
 にまで増
 えまし
 た。自分
 が教え
 た人
 たちがど
 んどん一
 分を切
 るよう
 になっ
 て、嬉
 しい気分
 になり
 ました。
 キュー
 ブに興
 味を持
 っ
 てくれる
 先生も
 いて、昔
 よりも僕
 は先生と

4

関係が広がりました。コロナ後、学校が始まり友達ができ、不安でしたが、ルービックキューブがきっかけで友達も増えます。学校に行くのが楽しくになりました。大会でも、僕は初めて会う人と共通の趣味で延々と話し合えることができて、とても嬉しかったです。です。僕の世界を広げてくれたキュービングコミュニケーションに感謝しています。これから大会に参加して、キュービングを通して自分の世界を広げていきたいと思っています。

二年二組
富田
華

ついに人生初のバックハンドスプリングバ

く
マ
ス
タ
ー
し
ち
や
う
な
ん
て
し。
と
笑
顔
で
褒
め
て

うやく形になつて、私は褒めてもらえた事が

時間、
ツム
で
み
ち
い
と
教
え
て
も
ら
た
後

を学
びな
か
ら
練
習
中
は
ず
と
ト
キ
ト
キ
し
て
い

練習日一回目。
ツムから戻るとすぐ友達のもの

習をした。
後ろへの回転は度胸がいる。
何度

練習日二回目
特別練習の後、
ビデオを撮

手を使わずに後ろへ回転するバツ
ク
フ
リ
ツ
フ°

し、	と、	とう、	帰っ	た。	い、	から	この	ンで	練習	まだ	使	付	る	ポ	み	ツ	一
もっ	言	これ	っ	で	集	や	の	動	習	だ	っ	い	よう	リン	たら	が	バ
とい	わ	で	て	きた	中	っ	日	き	日	す	て	て	にな	の上	、	掴	ッ
いい	れ	お	す	たの	カ	て	は	を	四	い	回	しま	なっ	では	夢	めた	フ
褒め	た	前	ぐお	だ。	を	み	で	確	日	ぶ	転	う。	た。	自信	に	た	宙
方	ッ	も	父	今	最	て	き	認	目	人	を	ト		を持	ま	が	か
は	ニ	ッ	さん	ま	大	言	る	し		理	助	ラン		っ	で	し	で
ない	ー	ニ	に	で	に	われ	気	練習		想	け	ポ		て	見	試	き
の	ズ	ズ	伝	一	し	、	が	に	行	の	れ	リン		バ	た	し	よう
か	女	に	え	番	マ	私	し	参	く	形	て	の		ッ	バ	に	な
と思	の	入	たら	の	ツ	は	た	加	前	に	いた	ス		ク	転	手	な
った	子	れる	、	で	の	大	最後	した	に	近	時	プ		転	成功	をつ	った
け	はい	な	っ	き	上	き	に	。	ト	づ	違	リン		か	。	けて	。
	い	な	お	た	で	く	コ	なん	ラン	い	う	グ		でき	ト	跳	少
		い	め	った	挑	息	ー	だ	ポ	て	感	を			ラン	んで	コ
			で	た	戦	を	チ	か	リ	ど、	覚						

れど、私の目指すところはそこじゃない。
かも挑戦は始まったばかりなのた。
またミドルスクールに通う四月、ハイスク
ールのチアのトライアウトがあった。仲間と
一週間のトライアウトを受けた。無事に合格
そこから週二回一日三時間のマツト練習と週
一回のタンブリングのジム通いが始まった。
今まで私はフライヤーという上に立つ担当
だった。でも身体をきたえるうちに下で支え
る担当へ移動し新たな取り組みが始まった。

また、小さい頃から習っていた得意のダンス
でフォーメーションの中心にポジションが決
まり責任も重大になった。体力作りにダンス、
みんなでアクロバティックな演技を合わせ、
仲間でチアを作り上げる楽しい時間は私を輝
かせてくれる特別な時間だ。そんな中、この
ワワワとした気持ちとは反対に生活面で大き
な変化が起り始めた。
ミドルの部活動が終わってからハイスクール
のチアの練習は、放課後からの時間が全部埋

まってしまい、他の事が何もできなくなつた。
 夜九時頃帰宅すると体がどろりと疲れ、お風呂
 に入るとすぐ寝てしまう。練習がきつくて食
 べられない日があつたりお腹がすいて食べ過
 ぎる日があつたり、食生活にも変化があつた。
 平日で時間が取れるのは水曜と金曜だけ。週
 末の使い方も工夫がいろいろ。お父さんとの約束
 で成績が下がると練習に行けなくなる。学校
 の宿題を夜中かけてやったり、すっかり提出
 を忘れたアサイメントを慌てて先生と連絡を
 とって出す日もあつた。すでに辛くなつてい
 た補習校の宿題やテスト勉強をするのがまし
 ます辛い。習い事の時間は取れなくなり自分
 で時間管理ができなくなつた。ちようどその
 頃から携帯電話を持つようになり、携帯電話
 にも時間を使い過ぎて両親から注意を受けた。
 一年通してチアをするなら、時間管理と体調
 管理を正しくしないとよい高校生活は送れな
 いよと言われた。好きなことばかりをしてい
 たら上手くないかな。ミドルスクールの卒業ま

での期間はハイスクールチアをしなからいろ
ろな心構えをする準備期間となった。
これから先のハイスクールの勉強、補習校の
宿題、習い事、朝のバイブルスタディクラ
ス、それに大好きなチアの部活動。今まで以
上に気合を入れるとしても、上手く管理して
いけるんたろうかと不安もある。これもチア
を頑張るのと同じで自分で挑戦していくこと
になる。

あと五日で十四歳の誕生日が来る。あと一

週間で高校生活が始まる。補習校の夏の宿題
はもう一息で終わりそう。これから始まる高
校生活に今はワクワクした気持ちでいっぱい
だ。きびきびと教えてくれるコーチから学び
かつこいいチアの先輩の後を追いかけるか
なりたい自分の姿を想像してどんな上を目
指して頑張りたい。

忘れられないホームカミング

三年 三組 足田 真山

アメリカに来て早一年、待ちに待った日本への一時帰国、空港で最初に出迎えてくれたのは親戚たち、ではなくまるでサウナの中のような熱気だった。二年前ぐらいまでこの暑さの中サッカーをやっていた自分を超人に感じるくらいだった。

基本的にこの帰国の目的は友達との再会、日本の学校での学習、そしてサッカー部への

参加だった。

学校初日、事前に聞いていたとおり僕はまず職員室へ向かい、名前がかっこいいことで有名な下川剣先生、通称キモ川に三年六組まで案内してもらった。次々と教室内に見える懐かしい顔ぶれは皆、ぎょとした表情で、

「は、足田」まさたかやんなど驚きの言葉を漏らした。担任であつたキモ川は英語の教師であるため、英語での挨拶を要求してきたが周りの期待の目も、からかいのブーイ

ングもはねのけて見事に日本語での自己紹介
 をした。
 実際のところ僕はこのクラスが本当に好き
 だった。どの授業へ行くにも教材が足りず、
 教科書がないことをからかわれたりもしたが
 そのたびに笑って返してやった。
 学校の中で唯一忘れ物をしなかったのは部
 活だ。スパイク、すね当て、服の上下に水筒
 とタオル、サッカー部に必要なものは全て持
 っていた。部活の初日もやはり挨拶だった。
 顧問の伊藤直紀、自称雨男に呼ばれ、中三の
 見知った仲間達、中二の怪訝そうな顔つきの
 後輩達、成長途中のさらに小柄な後輩達を見
 渡し一言、よろしくお願いします。え、
 それだけという雰囲気の中雨男がとっさに
 「はい練習始めるぞ」とナイスカバー。その
 まま一年前と全く変わらない練習が始まった。
 この時期の部活の中三は最後の大会が近く
 練習にもかなり熱が入る。そのため練習は楽
 しいのだが、チームの学年同士の距離が大き

く感じられた。ピリピリした部内でけんかが起きないよう僕は努めて明るく振る舞った。僕にとつてこのチームは一年間プレイした思い出のあるチームなので、チーム内に亀裂が入ることはどうしても許せなかったのだ。そうして楽しいと同時に忙しい日々は瞬く間に過ぎていった。

迎えた大会初戦、あいにくの雨だった。チームのモチベーションはかなり上がっている。た。え、普通は下がるんじゃないか。て。い

えいえ、実は我が校のサッカー部、聞いて驚くことなかれ、雨男が赴任してから雨の日の勝率は脅威の百パーセント。さすがは雨男、大事な初戦にしっかり雨を降らせてくれた。序盤からペースを握ったチームは二対零で快勝、しかし二回戦の相手は地区では有名な強豪校に決定。さらに聞くところによると最近にはさらに勝率が良いとのこと。そこからの一週間、僕を含めた中三は一進一退となり厳しい練習をこなした。

緊張の第二戦、曇りはしたものの雨の降る
気配はなく、公平な実力勝負だ。こちらのエ
ースであるトップは敵デイトンスに囲まれ
て、チームは劣勢だった。ところが、試合の
均衡は前半のうちに破られた。右サイドから
のボールを一気に敵ゴールに押し込みこちら
が先制、その辺りから徐々に優勢になっ
ていった。敵を精神的に追いつめつつ、こちらに
余裕ができたと思われた矢先の後半十分、コ
ナリーキックに敵が上手く頭を合わせて、状

況は五分に。しかしそのさらに十分後に我ら
が自慢のミッドフィールダーのロングシュー
トが炸裂、勝利は濃厚かと思われたが試合終
了五分前の敵のロングシュートによりまたも
同点にされた。運命のPK戦、両チーム最初
をはずし迎えた四本目、ここで先攻の敵チー
ムが痛恨のミスをおかし、こちらは決め、ス
コアは三対二、つまり次を止めれば勝ちとい
う場面、キャプテンでもあるキーパーが敵を
威嚇する。右下角に打たれたボールをキーパー

ーがダイブでキャッチし、試合終了。下馬評
を覆す堂々の勝利だった。顧問の雨男も僕が
アメリカに帰る前の最高のプレゼントだと言
った。
さて、目まぐるしく二週間が過ぎたがクラ
スにもすっかりなじみ、最後の日がやっでき
た。帰りの会一同への別れの挨拶、もちろ
ん英語を要求された。二週間の感謝と別れの
悲しみを込めて、優しくしてくれてありがと
う、良い一年をお過ごし下さいと英語で伝え
た。理解してもらえたのかは分からないが、
きっと大丈夫だろう。
僕はサッカー部からの勝利とクラスの人と
の思い出をお土産に帰ってきた。それらは今
も記憶の中に。

ア	私	環	い	洋	ル	ガ	い	り	流	有	写	ン	で	ス	見				
ス	は	境	ま	服	ル	ど	る	入	行	名	真	サ	し	タ	る	携	ビ		
ト	こ	問	あ	が	へ	ん	洋	れ	い	人	で	ー	た	グ	と	帯	ビ		
フ	の	題	。	売	行	ど	服	ま	の	ヤ	し	ガ	。	ラ	、	か	ビ		フ
ア	ま	に	で	っ	く	ん	ヤ	あ	フ	イ	た	新	早	ム	私	ら			ア
ッ	ま	っ	あ	て	時	欲	ス	。	ア	ン	。	し	速	に	の	の			ッ
シ	安	い	ガ	い	は	し	タ	私	ッ	フ	私	い	開	写	好	通			シ
ヨ	く	て	、	る	、	く	イ	は	シ	ル	達	流	い	真	き	知			ヨ
ン	て	の	最	の	大	な	ル	、	ヨ	エ	の	行	て	を	な	者			ン
ブ	流	話	近	で	体	り	を	イ	ン	ン	世	り	み	投	イ	が			の
ラ	行	題	、	、	安	ま	見	ン	ヤ	サ	代	の	る	稿	ン	鳴			未
ン	り	ガ	国	た	い	す	て	ス	ト	ー	は	フ	と	を	フ	い			来
ド	の	広	連	く	値	。	い	タ	レ	な	イ	ア	、	し	ル	ま			
ガ	洋	ま	の	さ	段	シ	る	グ	ン	ど	ン	リ	そ	た	エ	し			
ラ	服	る	S	ん	で	ヨ	と	ラ	ド	を	ス	ン	の	、	ン	た			
洋	、	に	D	買	私	ッ	、	ム	の	通	タ	ヨ	イ	と	サ	。			
服	っ	っ	G	っ	の	ど	新	に	情	し	グ	ン	ン	い	ー	ヌ			
を	ま	れ	目	て	欲	ン	し	載	報	、	ラ	を	フル	う	ガ	コ			
買	り	て	的	し	し	グ	い	っ	を	今	ム	し	ル	通	イ	ホ			
い	フ	、	や	ま	い	モ	服	て	取	の	で	た	エ	知	ン	を			

し	を	た	シ	環	る	生	石		り	ト	H	身	ガ	能	産	い		う	続
て	含	め	ン	境	過	み	油	ま	ま	フ	&	近	買	を	・	入	フ	に	け
い	め	た	ン	汚	程	出	産	あ	あ	ア	M	な	え	指	販	れ	ア	な	る
ま	た	あ	は	染	で	す	業	は		ッ	な	ブ	る	し	売	た	ス	い	こ
あ	棄	ぐ		は	の	産	に	環		シ	ど	ラ	の	ま	ち	低	ト	ま	と
。	量	に	短	深	河	業	次	境		ヨ	ガ	ン	で	あ	る	価	フ	し	を
売	は	捨	い	刻	川	と	い	問		ン	含	ド		。	フ	格	ア	た	し
れ	膨	こ	周	で	の	言	で	題		に	ま	で	特	手	「	の	ッ	こ	て
残	大	ら	期	。	汚	あ	世	。		は	あ	言	に	軽	」	服	シ		い
り	て	し	で		染	れ	界			ニ	ま	う	若	に	シ	を	ヨ		い
ガ	。	ま	買	ま	な	て	で	フ		の	す	と	者	最	ヨ	短	ン		の
で	ゴ	い	い	た	。	い	ニ	ア		大	。	Z	達	新	ン	い	と		か
き	ミ	ま	替	。	生	ま	番	」		き	け	A	の	の	ブ	サ	は		と
る	問	あ	え	フ	産	。	目	シ		な	れ	R	中	デ	ラ	イ		疑	
の	題	。	よ	ア	工	服	に	ヨ		問	ど	A	で	ザ	ン	ク	ト	問	
に	も		傾	ス	場	を	環	ン		題	も	、	は	イ	ド	ル	レ	を	
な	深	売	向	ト	周	製	境	業		点	フ	ユ	人	ン	や	で	ン	持	
ぜ	刻	れ	が	フ	辺	造	汚	界		ガ	ア	ニ	気	の	店	大	ド	っ	
カ	化	残	強	ア	の	す	染	は		あ	ス	ク	で	洋	舗	量	を	よ	
大		り	い	ッ			を					口	あ	服	形	生	取		

振	シ	の	は	解	イ		金	働	実	件	す	ラ	い	そ	こ	り	く		量
股	ョ	素	い	決	コ	フ	な	く	現	費	。 賃	ン	る	う	ん	ポ	社	フ	生
は	ン	材	き	で	ッ	ア	ど	人	で	を	金	ド	の	考	な	ス	会	ア	産
ま	に	を	ま	き	ト	ス	の	々	き	削	基	は	で	え	に	は	面	ス	。 大
た	変	使	せん	え	す	ト	劣	は	て	減	準	発	あ	て	安	十	で	ト	量
少	更	っ		ば	る	ッ	悪	不	い	あ	の	展	る	み	い	ド	の	ッ	消
な	し	た		い		ア	な	衛	子	こ	途	上	く	と	値	ル	問	ン	費
く	て	洋	地	い	と	ッ	劣	生	の	と	国	に	の		段	以	題	ン	の
、	み	服	球	の	い	シ	働	な	で	で	発	生	フ	全	で	下	点	ン	仕
価	た		に	で	う	ョ	環	職	す	、	展	産	ア	こ	流	で	も	ン	組
格	く	サ	優	あ	こ	ン	境	場	。 だ	服	途	施	ス	は	行	買	あ	は	み
も	て	ス	し	が	と	を	で	、	で	を	上	設	ト	劣	り	え	い	環	を
高	も	テ	い		で	一	働	長	あ	安	国	を	フ	働	の	て	ま	境	助
く		イ		そ	こ	切	い	時	が	く	で	持	ア	面	洋	し	あ	面	長
、	ブ	ナ	オ	の	の	買	こ	間	、	売	生	っ	ッ	と	服	ま	。 な	た	し
ま	ラ	ブ	ー	様	様	あ	い	労	こ	る	産	て	シ	繋	が	う	ぜ	け	て
た	ン	ル	ガ	に	な	ない	ま	働	の	こ	し	い	ョ	が	買	の	。 こ	で	い
自	ド	フ	ニ	単	問		す	、	分	と	、	ま	ン	っ	える	な	は	な	ま
分	の	ア	ッ	純	題	ボ		低	で	ガ	人	ブ	ブ	て	の。	せ	ト	な	す。

優		る	以	服	と	え	着	け	重	ド	見	作	服	こ	か	た	い	あ	婦
し	早	こ	た	は	流	て	る	で	要	だ	る	ら	が	と	ら	い	値	若	き
く	い	と	よ	本	行	い	こ	買	で	け	と	え	ど	を	、	段	者	な	ス
、	、	が	う	当	い	く	と	っ	す	に	良	た	こ	考	ま	を	も	ス	タ
自	安	大	な	に	し	だ	が	こ	。流行	影	い	の	で	え	ず	私	、	お	イル
分	い	切	服	自	を	け	な	し	流行	響	か	、	ど	る	は	あ	金	の	服
の	し	だ	を	分	競	で	く	ま	っ	さ	も	買	人	要	、	に	に	の	服
個	オ	思	既	が	識	あ	、	う	こ	あ	し	う	な	が	私	、	余	を	手
性	シ	い	に	好	あ	買	捨	と	い	お	あ	前	人	あ	達	好	裕	に	入
を	ヤ	ま	持	き	る	う	こ	ト	る	洋	あ	に	の	る	一	き	が	手	入
表	シ	あ	っ	で	の	と	え	レ	か	服	ん	立	手	と	人	な	ま	に	入
現	で	。あ	い	三	で	き	て	ン	と	を	。さ	ち	に	私	が	フ	だ	の	は
あ	は		な	年	は	は	し	ド	い	選	ら	止	よ	は	身	ア	な	の	は
る	な		か	後	な	、	ま	ガ	う	ん	に	ま	っ	思	近	リ	い	の	は
乗	く		、	で	く	っ	う	去	い	で	、	て	こ	い	に	シ	の	は	困
し	、		を	も	、	安	洋	れ	う	買	ト	考	の	ます	で	ヨ	で	は	難
さ	地		考	着	こ	い	服	ば	理	う	、	え	様	。洋	き	を	高	で	で
を	球		え	が	の	し	増	一	由	こ	ン	そ	に	洋	る	し	高	で	で
味	に			、	洋	、		生	だ	と	ガ								
あ										が									

えるファッション文化に変わり始めれば、
ランド側も消費者に合わせ、環境を大事にす
る企業へ変わっていくと思います。私もファ
ッションに興味がある十六歳の学生として、
これから洋服の選択をするとき、流行だけを
基準にせず、地球に優しく、自分が本当に好
きなものを購入しようと思います。

社会問題を略すということ
コニコニケーション文化が発展しているな
か、「略語」というものの使用率は年々増し
ている。言葉を省略して言いやすくするとい
う点のみを見れば非常に便利ではあるが、私
は、略す対象となる言葉とそれを使う場面を
わきまえるべきだと思う。なぜなら、今ある
社会問題の危険性や解決の必要性が人々に伝
わらないと思うからだ。

私は「略語」と社会問題との関係について
考える前から言葉を略すのが好きではない。
マンガやアニメ、本などの題名になるとなお
さら違和感を覚えていた。それは、作者が時
間をかけて考えた物に対して失礼なのではな
いかと感じるからだ。
そんな私に日本語における「略語」の問題
性を教えてくれたのは現地の校の友人だった。
男女差別のリサーチをしていた彼は、なぜ日
本ではセクシュアルハラスメントをセクハラ

というのかと問うてきた。私は、「日本人は
 略すのが好きなんだよね」と答えたが、「セク
 ハラだけでは何が問題なのか分からないと言
 われてしまった。同意する他なく、会話はそ
 こで終わってしまった。
 日本で「セクハラ」と聞けば、大半の人が
 どういうものが説明できるだろう。だがもし
 や、と思い調べてみると、「セクハラ」という言
 葉を知っていていても、それが略語であること
 気付いていない人もいた。そうすると、「セク
 シュアルハラスメント」という言葉の重さを軽
 視してしまうことに繋がるのではないかと思
 う。
 また、日本ではコロナウイルスが流行しは
 じめてから使われるようになった言葉がいく
 つかある。「マンボウ」もその一つだ。「マ
 ンボウ」とは、「蔓延防止」の略で、日本の
 ニュース記事やテレビ番組で一時期頻繁に使
 用されていた。確かに「蔓延防止」というよ
 リ「マンボウ」と言っただ方が文字数は少ない。

しかし、減るのはたつた三文字だ。その三文字の為に「蔓延防止」を「マンボウ」と略す必要性を私は感じない。

その上、「蔓延防止」を「マンボウ」と略すも魚のマンボウを連想してしまふ事があるだろう。実際、初めて「マンボウ」とテレビで聞いた時、なぜコロナと魚が関係しているのだらうと思つた。そのためニュースに集中する事ができなかった。

更に、「マンボウ」は魚を連想させるため、

言葉にかわいらしさが加わるように思う。そのうすると、コロナウイルス蔓延防止の重要性が薄れてしまう。これは、日本政府が国民に恐怖を感じさせないための優しさなのか、それともコロナ禍でも日本には余裕があるとお世たい自尊心なのか、または単純に言いやすいたいというだけなのか私には分からない。が、コロナ蔓延という生と死にまで関わる社会問題を「マンボウ」と略すのはあまりにも事を軽んじているように思うのだ。

て	ル		る	す	生	や	な	の	う	ら	え	ど	カ	本	業	す	ハ	
き	化	コ	バ	の	活	す	く	で	言	に	ば	ん	デ	人	だ	る	ラ	ハ
て	が	ミ	と	では	の中	さ	、	より	葉	い	、	な	ミ	の	。カ	。そ	、	ス
い	進	ユ	思	はな	に	、	私	理	を	え	、	問	ッ	特	。カ	し	ス	メ
る	む	ニ	う	なく	浸	寛	も	解	使	え	、	題	ク	徴	タ	て	メ	フ
。そ	今	ケ	の	、	透	やす	略	し	バ	、	、	な	ハ	と	カ	こ	ハ	ト
して	、	ー	だ	使用	して	、	語	やす	、	アカ	、	の	ラ	も	ナ	れ	、	の
日	日	シ	。	する	い	便利	を	く	、	デ	、	か	ス	だ	ら	は	ス	話
本	本	ョ		時	る	さ	日	な	、	ミ	、	が	メ	ろ	、	ど	モ	に
人	は	ン		場合	、	、	常	ら	、	ツ	、	は	フ	う	れ	れ	ハ	戻
の	カ	文		を	、	、	的	、	知	ク	、	き	と	。	も	、	ラ	る
性	タ	化		わ	、	、	に	、	っ	で	、	り	略	。	日	、	な	が
格	カ	、		き	、	、	使	、	て	は	、	す	さ	。	本	、	の	、
上	ナ	そ		ま	、	、	、	、	い	な	、	る	ず	。	で	、	言	日
、	英	し		え	、	、	、	、	る	教	、	。	い	。	、	、	葉	本
それ	語	、			、	、	、	、	言	育	、	。	言	。	、	、	が	に
ら	が	グ			、	、	、	、	葉	と	、	。	え	。	、	、	存	は
	増	ロー			、	、	、	、	な	い	、	。	ば	。	、	、	在	ア
	え	バ			、	、	、	、		い	、	。		日				カ

の言葉を略す事が多い。言葉を略す事には利点もあるが、意味が分かりづらいという欠点も存在する。社会問題が省略されていると真意も伝わらず、一向に問題解決に近づく事はないだろう。

今この時代を生きる私たちは使う言葉を慎重に選び、省略語というものが及ぼす影響について考えなくてはならないのだ。